FNIRSI

DLA-16 Plus

USBロジックアナライザー
日本語取扱説明書（参考訳）

ご使用前に安全上の注意を必ずお読みください。

翻訳・編集：泰宕商事株式会社
参考訳 v1 / 2026-10-12

参照原本：DLA-16/32（Plus）Logic Analyzer User Manual V1.2、2026.03.17改訂、英語01～15ページと保証カード。

本書について

本書はメーカー原本をもとに、操作・仕様・安全上の注意を日本語で翻訳・整理した参考訳です。メーカー公式の日本語版ではありません。画面の文言、仕様、付属品が異なる場合は、実機の型番・ハードウェア版と対応するメーカー原本を確認してください。

メーカー原本の操作・仕様・安全注意を日本語で再構成した参考訳です。

構成

1. 安全・入力・USB接続

2. 概要・型番・全基本仕様

3. 全チャンネル条件別サンプルレート・LED

4. ソフト・ドライバー・画面全領域

5. 接続・取得・デコード・全波形操作

6. グリッチ対策・全FAQ

7. メーカー・保証・記録

1. 安全・入力・USB接続

・被測定系の電圧は定格入力－40～+40Vを超えないでください。超過は恒久損傷の原因です。

・原本は高電圧系でUSBアイソレーターを指定します。ただしUSB絶縁で入力定格が上がるわけではなく、危険電圧系へ直接つなぐ許可ではありません。対象と絶縁機器の定格・基準電位を確認してください。

・USB3.0の性能にはPC側USB3.0ポートが必要です。USB3.0対応アイソレーターとの速度・給電適合は別途確認します。

・USBハブを避けてPCへ直接接続します。デスクトップPCはマザーボード背面端子が推奨です。付属USBケーブルを使い、緩み・破損を確認します。

信号入力とPWM出力を取り違えないでください。PCの接地経路も含めて安全な共通基準を確認してから接続します。

2. 概要・型番・全基本仕様

デジタル信号の捕捉・タイミング・波形・トリガー・プロトコル解析、データ保存と再表示をPCソフトで行います。本書の対象はDLA-16 Plus、入力16チャンネルです。別モデルのチャンネル数・同時取得レートを適用しません。

項目	原本の値
最小検出パルス幅	2ns
最大入力周波数	200MHz
ハードウェアメモリー	4Gb
Buffer最大深度	4Gbit
Stream深度	低サンプル時はPC空きメモリーに依存
取得分解能	±1サンプル周期
モード	Buffer（高レート）／Stream（長時間）／Roll（リアルタイム監視）
トリガー	立上り／高レベル／立下り／低レベル／任意エッジ
プロトコル	120以上、公開デコードライブラリー・カスタム対応
入力	−40〜+40V、250kΩ／15pF
しきい値	−5〜+5V、0.1V刻み
PWM出力	4ch、3.3V、1Hz〜20MHz
チャンネル端子	1.27mmシールドケーブルコネクター
給電	5V±0.2V、最大460mA（5V時）
寸法／動作温度	約90×81×11.5mm／0〜70℃

3. 全チャンネル条件別サンプルレート・LED

取得条件	最大レート（原本表記）
Buffer・1CH／8CH	1G／1G
Buffer・16CH	500M
Stream・1CH／2CH	1G／1G
Stream・4CH／8CH／16CH	500M／250M／125M

G／Mは原本のレート表記です。全入力チャンネルで1G取得できるという意味ではありません。最大入力周波数200MHz・最小パルス2ns・サンプル周期の精度は別の指標です。PC・接続条件に合わせて選びます。

LED	状態
赤	未接続
緑	接続済み
青	データ取得中
消灯	電源オフ、またはファームウェア更新中

P0〜P3はPWM出力番号、0〜15は入力チャンネル番号、Type-CはPC接続です。LED消灯だけで故障とは判断しません。

4. ソフト・ドライバー・画面全領域

www.fnirsi.comから対象の公式PCソフトを取得します。原本のファイル例はDLA_Logic_V1.0_x64.exe。実行してNextでインストール、デスクトップのDLA_Logicを起動します。初回利用にはドライバーが必要で、通常はインストール時に選択済みです。未選択なら同インストーラーのドライバー項目で導入します。macOS対応はこの原本にありません。

> セキュリティ警告の扱い
> 原本は一部の警告を誤検知として保護ソフト停止を案内していますが、本書は保護を無効化する操作を案内しません。公式取得元・ファイル署名などを確認し、警告が解決しない場合はメーカーへ確認してください。

画面領域	機能
上部ツールバー	デバイス・ソフト設定、データ入出力。
左チャンネル	トリガー、順序、名称。
左下デバイスページ	Home、接続デバイス、開いたファイル、プロジェクト。
中央波形	上は時間軸、左H／L、波形とデコード結果、右下ショートカット。
右サイドバー	取得制御・設定、デコード、測定。アイコンで表示切替。
右下パラメーター	現在の取得設定。

5. 接続・取得・デコード・全波形操作

付属USBでPCへ接続し、安全な対象の信号線を入力へ、GNDを対象の共通GNDへ接続します。DLA_Logicは自動検出し、左下にDevice Connectedを表示します。Settingで使用チャンネル・時間・レート・しきい値・運転モード・取得モードを選び、右上Runで取得開始します。

取得後にDecoderを開き、Decoder Searchで対象プロトコルを検索します。Protocol Settingsで実際の信号と同じ設定・チャンネルを指定しOK。結果が波形上へ表示されます。120以上という数は個々の信号の自動判定・無条件対応を保証しません。

操作	方法
拡大／縮小	マウスホイール上／下。
水平移動	左ボタンで押しながらドラッグ。
範囲拡大	右ボタンで矩形を作り、離してその範囲へ。
チャンネルスクロール	左領域にポインターを置きホイール、またはショートカット。キー名は原本に詳細なし。
ゼロ点へ	波形右下のゼロ点ジャンプ。
全体表示	波形右下の全体表示。

6. グリッチ対策・全FAQ

対策	原本の説明と接続条件
直接接続	GNDを短く対象GNDへ直接接続、数珠つなぎにしない。信号も入力へできるだけ直接。
複数GND	同じ安全な基準電位の対象GNDを複数箇所で接続、1点にまとめすぎない。異なる電位を結ばない。
束ねる／より対線	GNDを含むチャンネル線を密にまとめる。
GNDを交互配置	原本は未使用チャンネルをGND扱いにしてGND – 信号 – GNDの配置を推奨。実際のGND線・ピン定義を確認し、任意の入力・PWM端子を内部GNDだと誤認しない。より対線も有効。

PCが認識しない／不安定ならUSBハブを外す、背面USB使用、WindowsデバイスマネージャーのDLA-Logicドライバー警告を確認、ソフト再インストール、付属ケーブル・接触を確認します。グリッチは配線等の複数原因があるため、上の対策としきい値を確認します。

PWM出力の設定画面、データ保存形式、ファームウェア更新の実行手順は本文に詳述されていません。更新中LED消灯の説明だけから更新方法を推測しません。詳細は対応電子ガイド・メーカー案内を確認します。

7. メーカー・保証・記録

Shenzhen FNIRSI Technology Co., Ltd.、深圳市龍華区大浪街道、偉華達工業園C棟西側8階（原本）。+86-755-28020752、support@fnirsi.com、business@fnirsi.com、www.fnirsi.com。実施規格GB/T15471-2013の原本記載は日本認証を意味しません。

原本保証は販売日起算。通常条件で説明書どおりの設置・使用における材料・加工欠陥を条項に従い無償修理とします。期間の数値なし。カードを保管、紛失再発行なし。カード原本なし、不適合な設置・付属品、誤使用・保管、無断分解／修理、期間経過は有償の例。泰宕商事の保証を変更しません。

型番、数量、購入店と連絡先・住所、注文／請求書番号、購入日、利用者・故障内容を記録します。

参照資料とお問い合わせ

参照原本：DLA-16/32（Plus）Logic Analyzer User Manual V1.2、2026.03.17改訂、英語01〜15ページと保証カード。

原本の製造元：Shenzhen FNIRSI Technology Co., Ltd.

メーカー資料：https://taigo-shoji.co.jp/manuals/fnirsi/dla-16-plus-multi-00d96fe6e491.pdf

製品・相談窓口：taigo-shoji.co.jp
お問い合わせ：support@taigo-shoji.co.jp

保証・初期不良対応は購入先の案内をご確認ください。原本にあるメーカー独自の保証延長、販売条件、広告表現は、泰宕商事の保証条件として転記していません。

原本との対応

原本の章・ページ	本書での扱い
01〜02ページ	安全・全FAQ・概要。
03〜07ページ	対象モデルの全仕様・全レート条件・全LED・端子。
07〜10ページ	ソフト・ドライバー・全画面領域・接続。
11〜13ページ	取得・デコード・全波形操作・全グリッチ対策。
14〜15ページ・カード	メーカー・保証・記録。